タブノキ

自然災害に直面した際に、人と自然の両方に回復力があった。1990 年から 1995 年の平成大噴火以来、島原半島東部の地域社会はすぐに復興した。土砂は片付けられ、記念施設が建てられ、災害の余波と今後の災害に対する備えを研究するために、平成新山ネイチャーセンターが 2003 年に設立された。自然の回復の強さと速度もまた、見る者を励ましてくれた。

災害の期間の間、垂木台地は何度も火砕流が直撃した。熱い、動きの速いガス、岩、灰の混合物により大損害を受けたこの地域は、現在の平成新山山頂からわずか 2.5 km しか離れていない。災害後まもなくして撮られた写真は火星の表面を見ているかのようだ。土砂に埋まることを免れた植物もが続いて起こった自然発火により焼かれてしまった。

巨大で健康な木のように、植物によっては、自然の火事から生き延びることができたものもある。この木は、タブノキという日本原産の世界最大級の月桂樹の標本である。タブノキの常緑樹は大きくて密集していて、その特徴と幸運が火砕流での破砕や発火を防いだと考えられている。